

■ 苅田港で実施中の主な事業

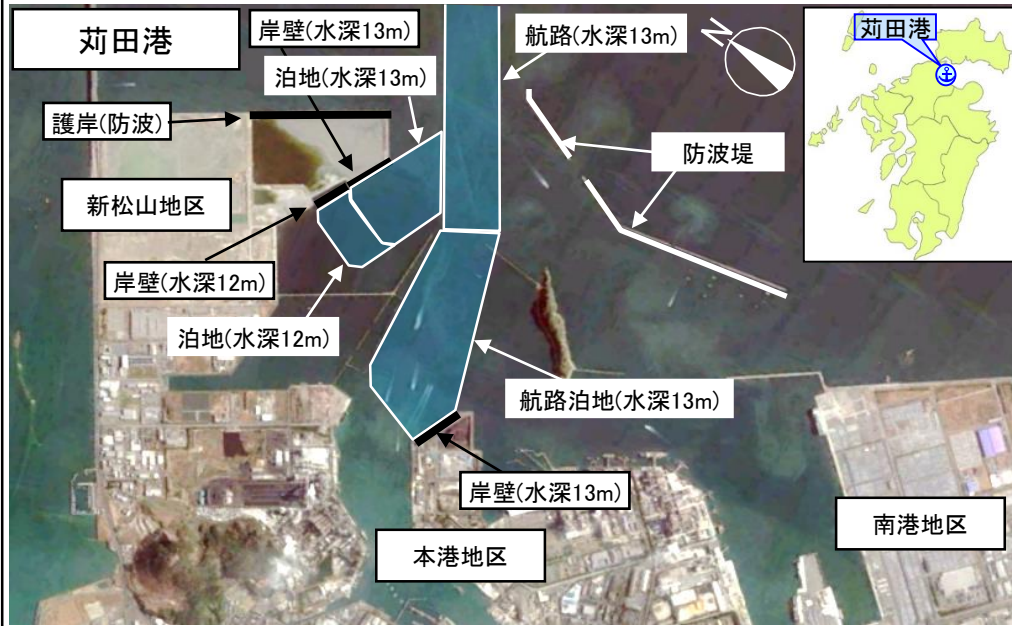
・ 国際物流ターミナル整備事業

■ 事業概要

- 苅田港の背後には、発電企業やセメント関連企業等が立地しているとともに、近年ではバイオマス発電企業等が進出するなど、新たな貨物の取り扱いが開始されている一方で、背後企業が取り扱う貨物需要の増加とそれに伴う船舶の大型化に対応できない状況である。
- 苅田港において、国際物流ターミナル（岸壁、航路等）の整備を行い、船舶の大型化等に対応する。また令和5年度からは、バイオマス発電企業の新たな操業開始や背後工業団地の分譲を受けた新規取扱貨物の増加に対応するため、新松山地区の整備済みの岸壁（水深13m）に隣接した箇所に岸壁（水深12m）及び泊地（水深12m）を追加整備する。

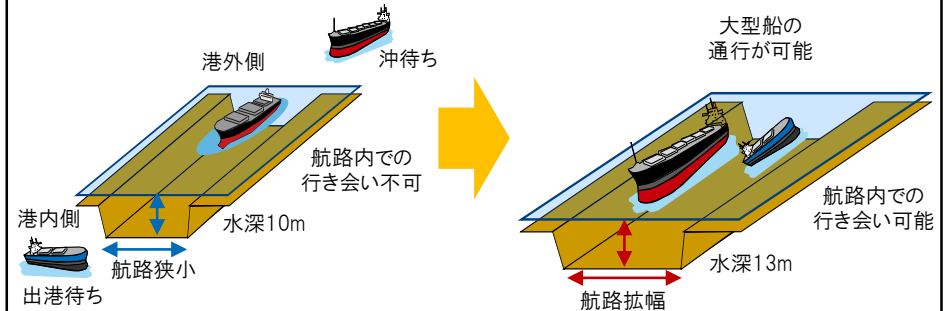
整備内容

- 【国】岸壁（水深13m）×2バース、岸壁（水深12m）、航路（水深13m）、泊地（水深13m）、泊地（水深12m）、航路泊地（水深13m）、護岸（防波）、防波堤
- 【県】臨港道路、護岸・ふ頭用地



主な整備効果

- 大型岸壁の整備や航路の拡幅増深を行い、船舶の大型化に対応することで、非効率な輸送が解消され、企業の国際競争力の強化や地域経済の活性化が期待される。



【航路の増深・拡幅の効果イメージ】

- 新たな岸壁整備により、大型船での大量輸送が可能となり、効率的な物流が実施されることで、既存産業の活力の維持・向上及び新規分譲用地への新規企業の立地等が期待され、地域経済の活性化や新たな雇用創出が期待される。



【バイオマス燃料の荷役状況】